

多摩だより

相談員在室日：水・木・金

お知らせ

7月28日(木)・7月29日(金)

二次試験対策講座 開催します!

今年も夏の二次試験対策講座の開催が決定いたしました!

講師にお招きするのは、中学・高校の校長経験のある先生方です。

ご希望の方は教職課程センター多摩相談室へメール(または来室)にてお申し込み下さい。

皆さまのご参加お待ちしております!!

※個人面接は枠に限りがあるため、各日先着順となります。

◆会場：総合棟 4 階大学院演習室 2・3 ※当日はスーツ着用をお願いします。

◆時間：10:00～18:00 の間(申し込み終了後、時間を振り分けます)

※申し込み締切 7月11日(月)12:00

※対面実施の予定ですが、感染状況によりオンライン開催に変更の可能性もあります。

(※当日、講座の記録として写真撮影をさせていただきます。予めご了承ください。)

【メール申し込みの場合】☆宛先・kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

(件名は「二次試験対策講座申し込み」をお願いします)

☆下記①～⑩を明記の上、教職課程センター多摩相談室までお申し込みください☆

- ①学部・学科 ②学年 ③学生証番号 ④氏名 ⑤携帯電話番号
⑥Eメールアドレス(PCから受信可能なもの) ⑦採用試験受験希望自治体 ⑧受験教科
⑨参加希望日時：7/28(木)・7/29(金) ※両日申し込みも可

(原則として終日空けておいてください。申し込み締め切り後、時間割を組みます)

⑩希望内容：個人面接・集団面接・集団討議・模擬授業 からお選びください

(※申し込み状況によっては、両日参加希望であってもどちらか一日のみになることや、また個人面接のみ希望者にも集団面接・集団討議にご協力を頂く場合があります。予めご了承ください。)

※感染予防対策について

対面指導の場合の感染防止対策については下記に記載していますので、必ず事前にご確認ください。

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/6516/0144/7862/kateicenterkouza0926.pdf>

◎教職相談の申し込み、質問はこちらへ

(窓口へ来室、もしくはメールにて事前申し込み)

メールは、公的な依頼文にふさわしい文体・体裁を考え、かつ以下の内容を必ず盛り込むようにして下さい。

①氏名 ②学部・学科 ③学年 ④学生証番号 ⑤面談希望時間(第3希望まで) ⑥相談内容 ⑦メール・アドレス(PCから受信可能なもの)を必ず記入してください。

宛先：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp

2022年4月～

(水・木) 前田先生(社会科)

(金) 熊野先生(保健体育科)

※教職履修・単位に関する質問は、所属学部窓口へお願いします。

さあ、1次試験本番です、1次試験対策に全力を！

あとちょうど1か月で、教員採用試験の1次試験本番を迎えます。自分の体調、健康に留意して、あまり無理をしないで、試験本番の当日に身も心もベストの状態に持っていきけるように体調を管理していきましょう。

これからの期間は、新しいことや今までにやったことのないことに取り組むのではなく、自分が今まで勉強してきたことに自信をもち、これまでの復習と整理に全力で取り組みましょう。下記の点を最後に繰り返し、頭の中に整理していきましょう。

- ① もう一度、「自分はなぜ教員をめざすのか」「どのような教員になりたいのか」など自分が理想とする教師像をイメージしましょう。また教育実習を経験した人は生徒たちと一緒に取り組んだ授業や行事などを思い出し、「絶対に教員になるのだ」という原点に戻り、自分のこれまでの頑張りに自信をもちましょう。
- ② 教職教養、専門教養などの必修事項を、自分の整理したノートや参考書・問題集で繰り返し見直して、復習・整理しましょう。
- ③ 自分が受験する自治体の教育施策、ローカル問題を見直しましょう。
→ 受験する自治体(都道府県・市)のホームページやパンフレット、冊子などで「教育目標」「教師像」「重点とする教育施策(ビジョン)」などに目を通しましょう。

そして、教員採用試験本番には万全の体調で臨み、これまで積み重ねた取り組みの成果を十分に発揮して、最後まであきらめずに1次試験突破を目指してください。皆さんの健闘を祈っています。

また、「教員採用試験対策講座」も7月6日まで開催しています。分からないことや相談したいことなどがありましたら、遠慮なく教職課程センターを利用してください。さらに1次試験終了後は、小論文添削や個人・集団面接対策、模擬授業対策を個別相談の中で実施していきます。必ず事前に申し込みをしてください。また、心配なこと、困っていることなどの相談もメールや電話などでしてください。

教員採用試験(1次・2次)終了後、受験した人には「教員採用試験受験報告書」の提出をお願いしています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

これまでの教育とこれからの教育～大きく変わる運動部活動～

6月1日に「運動部活動の地域移行に関する検討会議」においてとりまとめられた提言がスポーツ庁長官に提出されました。提言では、・休日の運動部活動から段階的に地域移行していく。・平日の地域移行は、休日の地域移行を検証しつつできるところから行う。・地域におけるスポーツの機会の確保と、生徒の多様なニーズに応えた活動機会の充実。地域のスポーツ団体等と学校の連携・協働が方向性として示され、令和7年度末を目途として実現を目指すとしています。

学校の教育環境は大きく変わりつつあります。GIGAスクール構想に見られるようなICTを活用した多様な学び、働き方改革による勤務時間の管理、新型コロナによる活動制限などが代表的なものです。とりわけ部活動の在り方については、働き方改革ともあわせて大きな課題として議論されてきました。スポーツ健康学部の学生で保健体育科の教員を目指す人は、運動部活動で育てられ、競技生活を送る中で技術や人間性を高めてきた経験を持っているのではないのでしょうか。その思いを教育現場で、今度は生徒たちにも伝えたいと考えるのは必然のことだと思います。しかし、これからの運動部活動は、競技生活で経験してきた思いをストレートに生かす場ではなく、保健体育科の目標にあるように、生涯にわたって運動やスポーツに親しむことができるように指導することが求められると考えられます。競技から得られる貴重な体験も多くあるのですが、「全国大会出場を目指す」目標は、遠い過去の目標となるかもしれません。

教員を目指す皆さんに期待することは、教育の本質を忘れず、変化に対し柔軟に対応しつつ、求められている教育をさらにリードできる教員になることです。令和3年度の東京都新規採用教員の途中退職者の割合が4.0%と過去最大になりました。「学び続けることをやめたら、教えることをやめなければならない」元サッカーのフランス代表監督の言葉です。自分が学び続けることで、環境の変化に対応し、時代を乗り越える力をつけてください。難関ではありますが、一人でも多くの教員がここから誕生してくれることを望んでいます。